

東日本大震災津波伝承館の開館について

1 いわて県民計画（2019～2028）の位置付け

「復興推進プラン」の4本の柱「未来のための伝承・発信」のもと、事実・教訓の伝承へ取り組んでいく。

【第1期アクションプラン—復興推進プラン（2019年度～2022年度）】

IV 未来のための伝承・発信（抜すい）

1 事実・教訓の伝承

未曾有の大規模災害の事実や被災された方のこれまでの経験を踏まえた教訓を確実に伝承し、その教訓を防災文化の中で培っていきます。

取組項目 22 教訓を伝承する仕組みづくりを推進します

① 東日本大震災津波伝承館の整備・運営

災害の歴史から学び、記憶や経験を語り継ぎ、将来に生かすため、高田松原津波復興祈念公園内に東日本大震災津波伝承館を整備し、展示及び教育・普及の事業を実施します。

また、大学、類似施設、被災地をはじめとする県内各地域等と連携し、防災文化の効果的な醸成と継承を図ります。

2 東日本大震災津波伝承館の設置目的（東日本大震災津波伝承館条例）

- (1) 東日本大震災津波の教訓の伝承（第1条）
- (2) 東日本大震災津波の発災から復興に至るまでの状況の国内外への発信（第1条）
- (3) 復興支援に対する感謝の発信（条例前文）

【参考 東日本大震災津波伝承館条例（平成31年3月26日公布・抜粋）】

平成23年3月11日に発生した東日本大震災津波により、多くの尊い命と財産が奪われた。

本県では、明治29年及び昭和8年の三陸地震津波、昭和35年のチリ地震津波等による被害を受けて、防災施設の整備及び地域防災の取組を進めてきたが、東日本大震災津波は、過去の津波を上回る大規模なものであり、かつて経験したことのない被害をもたらした。

二度とこのような被害を生じさせないためには、大規模な自然災害が発生しても、致命的な被害を負わない強さと速やかに回復するしなやかさを併せ持つ地域社会の構築を進めていくことが重要であり、そのためにも、東日本大震災津波の事実を踏まえた教訓を伝承していく必要がある。

また、我が国のみならず世界の防災力の向上に貢献できるよう、東日本大震災津波からの復旧・復興をはじめ、最先端の防災・減災施策に取り組む姿を広く国内外に発信していくことは、被災県である本県の責務である。

ここに私たちは、これまでいただいた数多くの復興支援に対する感謝の意を表し、東日本大震災津波の悲劇を繰り返さないため、今回の災害の事実を踏まえた教訓を後世に伝承していくとともに、復興の姿を国内外の人々に発信していくことを決意し、東日本大震災津波伝承館を設置することとし、この条例を制定する。

（設置）

第1条 東日本大震災津波（平成23年東北地方太平洋沖地震及び津波による災害をいう。以下同じ。）の教訓を伝承するとともに、東日本大震災津波の発災から復興に至るまでの状況を国内外に発信するため、東日本大震災津波伝承館（以下「伝承館」という。）を次のとおり設置する。

名 称	位 置
東日本大震災津波伝承館	陸前高田市

（行為の許可）

第2条 [略]

（行為の禁止）

第3条 [略]

（許可の取消し等）

第4条 [略]

（損害賠償等）

第5条 [略]

（補則）

第6条 [略]

附 則

[略]

3 東日本大震災津波伝承館オープン日

令和元年9月22日（日）

※ 午前中にオープニングセレモニーを予定しているため、一般入場は、午後になる見込み

4 施設の概要

(1) 名称	東日本大震災津波伝承館
(2) 愛称	いわて T S U N A M I メモリアル
(3) 設置場所	岩手県陸前高田市気仙町字土手影 180 番地（高田松原津波復興祈念公園内）
(4) 規模・構造	鉄筋コンクリート造2階建 延床面積（2階含む）7,079 m ² のうち展示面積 1,155 m ²
(5) 開館時間	9時から17時まで（最終入館時間 16 時 30 分）
(6) 休館日	12 月 29 日から翌年 1 月 3 日まで 施設メンテナンスのため必要となる日（概ね年 4 日程度）
(7) 入館料	無料
(8) 職員体制	○館長 知事 ○副館長 2 名（総務担当・事業担当各 1 名） ○職員及び解説員 学芸員及び社会教育主事も配置 （英語担当の解説員も配置予定）
(9) その他	「東日本大震災津波伝承館運営協議会（仮称）」の設置

5 東日本大震災津波伝承館の基本的な事業及び令和元年度における取組

1 展示事業

- ・ 常設展示の実施及び更新（年 1 回）並びに専任の解説員による分かりやすい解説の実施
- ・ 企画展示の実施（平年 4 回）

2 教育・普及事業

- ・ 学校、企業、自治会、研究者等対象者に応じた視察・研修プログラムの開発
- ・ 小中学生向け復興・防災教育プログラムの開発・普及
- ・ ボランティア、語り部等の人材育成研修及び連携体制構築

3 連携事業

- ・ 岩手大学（陸前高田グローバルキャンパスを含む。）、東北大学及び岩手県立大学との連携体制構築
- ・ 県内外の類似施設との連携
- ・ 海外の津波博物館との連携
- ・ 県内及び被災 4 県の震災伝承施設群のネットワーク化

4 広報宣伝事業

- ・ 情報発信（ホームページ、SNS）
- ・ 誘客促進（観光を始めとした関係機関連携による効果的な誘客促進）

6 常設展示の内容

展示のテーマ

いのちを守り、海と大地と共に生きる。
 ～二度と東日本大震災津波の悲しみを繰り返さないために～

展示構成	展示内容（調整中）
エントランス（24H） 来館者を最初に迎える場としてインフォメーションを提供するとともに、公園、陸前高田市街地、三陸沿岸地域へと誘う情報提供を行う。さらに、全国・世界の津波博物館情報を提供する。	<ul style="list-style-type: none"> ・施設案内、避難案内 ・高田松原津波復興祈念公園ガイド ・陸前高田市街地ガイド ・岩手県 三陸ガイド〔地図〕 ・岩手県 三陸ガイド〔検索装置〕 ・3.11伝承ロード〔地図〕 ・全国・世界の類似館紹介〔検索装置〕 ・メッセージボード〔壁面モニター〕 ・施設メッセージ〔壁面モニター〕
ガイダンスシアター	いのちを守り海と大地と共に生きる <ul style="list-style-type: none"> ・一般向け〔40席 映像12分〕 ・子ども向け〔40席 映像12分〕
ゾーン１：歴史をひも解く すべての人間は自然災害リスクと隣り合わせにいて、特に日本列島は自然災害リスクが高く、とりわけ三陸地域は津波の常襲地であること、それに対して知恵や技、文化を育み、自然災害への対応力を高めてきたことについて、歴史をひも解きながら伝える。	1-1 地球の営みと自然災害〔動画〕 1-2 繰り返す地震津波の歴史 1-3 日本の自然災害対策の歩み
ゾーン２：事実を知る 東日本大震災津波の事実をありのままに伝え、津波の脅威、被害の実相、命が失われることの重さを、一人ひとりの心に刻む。	2-1 東日本大震災津波の概要 2-2 被災物は語る 2-3 失われた風景 2-4 被災者が語る津波の脅威 2-5 2011年3月11日 東日本大震災津波発生 〔12席（＋仮設8席）映像6分〕
ゾーン３：教訓を学ぶ 東日本大震災津波の経験から得た様々な教訓を伝え、知恵と技術で備え、主体的に行動することで多くの命を守れることを学んでもらう。	3-1 いのちを救うために・災害対策室 〔20席 映像8分〕 3-2 いのちを守る・支える 3-3 避難行動の事実 3-4 未来をつくる
ゾーン４：復興をともに進める 東日本大震災津波を乗り越えて進む被災地の姿を、全国・世界からの支援に対する感謝とともに伝える。	<ul style="list-style-type: none"> ・支援への感謝 ・みんなで復興を考えるテーブル 〔地図、モニター〕 ・企画展示

※ 展示内容については、外国人に対応するため、多言語対応（日・英・中繁・中簡・韓）とする。

(専用ホームページ画像 (7月26日開設 <https://iwate-tsunami-memorial.jp/>))

いのちを守り、海と大地と共に生きる
～ 二度と東日本大震災津波の悲しみを繰り返さないために ～

東日本大震災津波伝承館

つなみ

「いわて TSUNAMI メモリアル」

2019年9月22日(日)開館予定

東日本大震災津波伝承館
ミッション・ステートメント

日本列島は、地球上でも特に自然災害の危険性が高い宿命の地であり、この地に生きる私たちは、長年にわたり自然災害への対応力を高めてきました。

しかし、2011年3月11日に発生した東日本大震災津波により、私たちは多くの尊い命を失いました。

この悲しみを繰り返さないためには、知恵と技術で備え、自ら行動することにより、様々な自然災害から命を守り、そして、自然災害を乗り越えていくことが重要です。

東日本大震災津波伝承館は、先人の英知に学び、東日本大震災津波の事実と教訓を世界中の人々と共有し、自然災害に強い社会と一緒に実現することを目指します。

そして、東日本大震災津波を乗り越えて進む姿を、支援への感謝とともに発信していきます。

2019年9月22日(日)開館予定



facebook

いわてTSUNAMIメモリアル

検索



twitter

いわてTSUNAMIメモリアル

検索



Instagram

Iwate_tsunami_memorial

検索

